



## 日本製薬団体連合会(日薬連)との連携



日薬連環境委員会 委員長  
前田 淳氏

日薬連は、医薬品製造企業を会員とする業態別の15団体(医療用医薬品、一般用医薬品などの業態別)と各都道府県に所在する地域別の16団体(東京医薬品工業協会、大阪医薬品協会など)で構成されています。製薬業界全体に関わる環境課題のうち、法的、社会的な取り組み要請が年々厳しくなりつつある地球温暖化対策と廃棄物の削減・適正処理を主な検討課題として取り上げ、2007年に環境委員会が設置されました。日薬連環境委員会は、業態別15団体中、環境関係の委員会を設置している日本製薬工業協会(製薬協)、日本ジェネリック製薬協会(GE薬協)、日本OTC医薬品協会(OTC薬協)、日本漢方生薬製剤協会(日漢協)の4団体から推薦いただいた委員(各団体2~4名)で構成され、厚生労働省や経団連を始めとする外部業界団体や協議会と連携し、環境保全活動に取り組んでいます。

### 環境委員会の取り組み

地球温暖化対策と省資源・廃棄物対策について、環境委員会は、経団連の自主行動計画に当初から参加し、毎年その進捗状況を調査し報告しています。

2013年度から経団連と連携した日薬連独自の行動計画(日薬連低炭素社会実行計画)が始まっており、省エネルギーを中心とした活動を継続しています。さらに、厚生労働省および経団連による調査・検証が毎年行われるなど、行動計画の達成に向けた積極的な取り組みが要請されています。進捗状況の調査では、「低炭素社会実行計画ワーキンググループ」を日薬連環境委員会内に設置し、2014年度からアンケートの作成、回答の集計、分析、報告書作成までの作業を行っています。

また、省資源・廃棄物対策に対しては、「循環型社会形成自主行動計画ワーキンググループ」を日薬連環境委員会内に新たに設置し、2016年度からアンケートの作成、回答の集計、報告書作成などの作業を行っています。

この他にも、医療系廃棄物対策などの製薬事業固有の課題や生物多様性への取り組みなどの環境課題の重要性が増してきており、こうした課題に対する社会的な要請にも積極的に社会的責任を果たしていきたいと考えます。

### 2015年度事業計画の進捗状況

#### ① 地球温暖化対策

日薬連低炭素社会実行計画への参加企業は、2016年8月現在で9団体、90社となっています。その参加団体名および参加企業名は、日薬連のホームページに公開されています(<http://www.fpmaj.gr.jp/documents/201407kankyau.pdf>)。

低炭素社会実行計画の第3回フォローアップ調査(2015年度実績)を実施しました。日薬連進捗管理係数を用いた場合、前年度比で

は0.5%削減、基準年度(2005年度)比で24.5%の削減となり、2020年度目標(23%削減)を達成したこととなります。ただし、今後医薬品市場の拡大に伴うエネルギー使用量の増加が見込まれるため、省エネなどの追加施策が必要となります。詳細については、前述の「地球温暖化対策」(8~11ページ)をご覧ください。

#### 日薬連の目標

2020年度の製薬企業のCO<sub>2</sub>排出量を、2005年度排出量を基準に23%削減する。

#### 対象範囲

- 対象団体・企業 ————— 日薬連加盟団体・企業(グループ会社を含む)
- 対象部門 ————— 工場、研究所
- 対象ガス ————— エネルギー起源のCO<sub>2</sub>

## 2 省資源・廃棄物対策

日薬連は、1997年度から経団連環境自主行動計画(循環型社会形成編)に参加し、日薬連傘下団体における産業廃棄物の最終処分量削減など循環型社会形成に向けた取り組みを推進しています。

2011年度からは、2015年度を目標年度とした第4期自主行動計画を策定し、日薬連傘下の4団体(製薬協、GE薬協、OTC薬協、日

漢協)の加盟企業における取り組み状況をフォローアップ調査し、その結果を経団連へ報告しています。

第4期自主行動計画の目標年度である2015年度の産業廃棄物最終処分量は5.8千トンであり、基準年度(2000年度)比80%減で、目標(65%程度削減)を達成しました。詳細については、前述の「省資源・廃棄物対策」(12～14ページ)をご覧ください。

### 日薬連の目標

#### 第4期自主行動計画:産業廃棄物最終処分量削減目標

2015年度において、2000年度比65%削減する(1.03万トン以下に削減)

循環型社会の形成を目指した取り組みは今後も継続していく必要があることから、2016年度以降は、経団連が「環境自主行動計画(循環型社会形成編)」から名称変更して継続実施する「循環型社会形成自主行動計画」に参加するとともに、第5期自主行動計画として日薬連の独自目標を策定して活動を継続しています。

#### 第5期自主行動計画:目標(数値目標および定性目標)

- ① 低炭素社会の実現に配慮しつつ適切に処理した産業廃棄物の最終処分量について、2020年度に2000年実績比70%程度削減を目指す。
- ② 2020年度の廃棄物発生量原単位(廃棄物発生量/医薬品売上高)を、2000年度を基準に50%程度改善する。
- ③ 2020年度の廃棄物再資源化率(再資源化量/廃棄物発生量)を55%以上にする。
- ④ 加盟企業の資源循環の質を高める3Rの取り組み状況を定期的に把握し、事例などの情報共有を通じて各社のさらなる取り組み推進を図る。

## 2016年度日薬連環境委員会の事業計画(重点課題)

### 地球温暖化対策

- 低炭素社会実行計画に基づくフォローアップ調査の実施、報告書の作成・提出
- 厚生労働省による低炭素社会実行計画フォローアップへの対応
- 低炭素社会実行計画のフォローアップ体制の強化、数値目標の達成に向けた情報共有と各種課題の検討

### 省資源・廃棄物対策

- 自主行動計画に基づくフォローアップ調査の実施、報告書の作成・提出
- 数値目標の達成に向けた情報共有とフォローアップ体制整備
- 容器包装リサイクル法の見直し審議に向けた対応
- 医療系廃棄物の削減・適正処理に向けた情報収集・情報提供、関係団体との良好な関係の維持

### 情報収集

- 生物多様性など事業活動に影響が大きい環境課題などの情報収集

## 日薬連低炭素社会実行計画WGの活動紹介



WGリーダー  
山野 徹氏

地球温暖化対策の新しい国際ルール「パリ協定」が11月に発効しました。国際社会が一丸となって、産業革命前からの世界の平均気温の上昇を「2度未満」に抑え、さらに「1.5度未満」をめざす体制が整いました。製薬業界もこの目標の達成に貢献すべく、日薬連環境委員会が主導して、2013年度に開始した低炭素社会実行計画の確実な実行と、それに続く2030年度を目標年度とする低炭素社会実行計画フェーズIIへの取り組みを進めています。どちらも野心的な目標で、その達成は容易ではありませんが、知識集約型産業の責務として、プロセスの最適化や最先端技術の導入によって、これを実現していきたいと考えています。